



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます



「りんご生産者サポート」の開始を記念し、5月にりんごの苗木の植樹セレモニーを行いました



国際協同組合年である今年、協同組合同士がつながった取り組みです。これからも、おいしいりんごを食べ続けられるよう、ともに歩んでいきましょう。

コープデリ連合会
大川代表理事専務理事

りんごがだんだん育っていく様子や、実を組合員さんにお届けするのが待ち遠しい。取り組みを通じて、りんごの良さや産地のことをより知っていただきたいと思っています。

J A つがる弘前
天内代表理事専務理事

9月にサポーターを募集。多くの方に賛同いただき、すぐに予定していた300人に到達しました。こうした取り組みにつながったのは、長年生産者とながかり作りを進めてきた「産直」だからこそ。これからも、生産者の皆さんが安心して品質の良いりんごを作り続けるために、コープデリグループはこれからも、生産者を応援する取り組みを続けます。

※今年度のサポーター募集は締め切りました。次年度以降の募集は、準備ができ次第ご案内します

コープデ리는生産者を応援！



地球温暖化・担い手不足
りんご生産は
難しくなっている

日本一のりんごの産地、青森県。今年はりんごが植栽されて150周年という記念の年です。夏でも涼しく、昼と夜の気温の差が大きい青森県では、果肉が引き締まった甘いりんごが栽培されてきました。そんな青森県でも、りんごを取り巻く環境は年々厳しさを増しています。一つは、地球温暖化。夏の高温で花芽が成長しにくくなり、実つたりんごも日焼けするなど、2023年・2024年は前年の収穫量を下回りました。今後さらなる高温が予測されていますが、対策には費用もかかるほか、りんごをはじめとする果樹は植えてから数年たたないと収穫できず、高温に強い品種に植え替えてもすぐには出荷できません。

りんご生産を取り巻く環境は厳しさを増している

●地球温暖化

●担い手不足



ほかにも…

- 物価高による生産コスト上昇
- 消費者の果物離れ など



もう一つは担い手不足。りんご栽培に限らず若者の農業離れが進んでいて、生産者の高齢化が進んでいます。物価高による生産コストの上昇や消費者の果物離れなども、担い手不足の要因です。



コーププラス
×
SDGs

組合員と生産者をつなぐ「産直」

りんご生産者サポート

私たちの「食」を支えている農業は、いま地球温暖化や生産者の高齢化・担い手不足など、たくさん抱えています。コープデリグループは、これからの農業を担う生産者をもっと応援するために、さまざまな取り組みを進めています。

さまざまな生産者応援に取り組んでいます



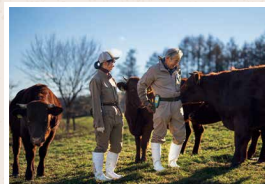
佐渡トキ応援お米プロジェクト

「CO・OP産直新潟佐渡コシヒカリ」やその加工品の売り上げの一部を「佐渡市トキ環境整備基金」に寄付。新潟県佐渡島のトキをはじめとする生きものを育む環境づくりに役立っています。



美ら島応援もずくプロジェクト

沖縄県伊平屋（いへや）島産のもずく商品の売り上げの一部を「美ら島応援基金」に寄付。ウミガメが産卵する砂浜や島の美しい自然環境を保護する活動などに役立っています。



産直はなゆき農場有機牛

持続可能な肉牛の生産に取り組む北海道の農場を、コープデリグループが支援。有機JAS認証を取得した国産牛肉は、宅配の商品カタログ「Vie Nature（ヴィ・ナチュール）」で取り扱っています。

コープデリグループは、事業と活動を通して「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成を目指しています。



今回の取り組みは、目標12：

つくる責任、つかう責任

につながっています。

12 つくる責任

